

人文研アカデミー2019

研究集会

現場から考える天皇制

「平成」から「令和」への元号制定、代替わりへと、マス・メディアから学界まで、皇室賛美への同調が「国民」に求められるなかで、個人としての天皇ではなく、制度としての天皇制について皆さんと考えたいと思います。いま、象徴天皇制は多くの「国民」によって支持されていますが、その内実は、生まれながらの貴種を生み出す「身分制」と言えます。研究集会では、この天皇制を、人びとの暮らしの現場から、例えば、儀礼、植民地、心のあり方、性のあり方といった点からとらえ直してみたいと思います。

場所：京都大学人文科学研究所4F大会議室

日時：2019年11月10日(日)午後1時～

司会 藤原辰史(13:00～13:10)

高木博志(13:10～13:40)

「近代天皇制と天皇就任儀礼」

池田浩士(13:40～14:10)

「「象徴天皇」とは何か？——天皇制の中に生きる私たちの自由と権利と責任」

井野瀬久美恵(14:10～14:40)

「帝国の調整者としての女王——比較対象としてのイギリス」

休憩(14:40～14:50)

駒込武(14:50～15:20)

「「反日」「非国民」「不敬」をつなぐもの——民族的他者を析出する装置としての天皇制」

茶園敏美(15:20～15:50)

「パンパンといわれたおんなたちと「天皇制」のおとこたち」(仮)

福家崇洋(15:50～16:20)

「天皇制と現代文明の行方」

休憩(16:20～16:30)

全体討論(16:30～17:30)

登壇者略歴

池田浩士(いけだ・ひろし)

京都大学名誉教授。『文化の顔をした天皇制』、『海外進出文学』論既刊3巻、『虚構のナチズム』、『子どもたちと話す 天皇ってなに?』、『抵抗者たち——反ナチス運動の記録』、『ヴァイマル憲法とヒトラー』、『ドイツ革命』、『ボランティアとファシズム』など。

井野瀬久美恵(いのせ・くみえ)

甲南大学文学部教授。『黒人王、白人王に謁見す——ある絵画のなかの大英帝国』(山川出版社)、『大英帝国という経験』(講談社)など。

駒込武(こまごめ・たけし)

京都大学大学院教育学研究科教授。著書に『世界史のなかの台湾植民地支配』(岩波書店)、共編著に『戦時下学問の統制と動員』(東京大学出版会)等。

高木博志(たかぎ・ひろし)

京都大学人文科学研究所教授。著書『近代天皇制の文化史的研究——天皇就任儀礼・年中行事・文化財』(校倉書房)、編著『近代天皇制と社会』(思文閣出版)など。

茶園敏美(ちゃぞの・としみ)

京都大学人文学連携研究者(人文科学研究所)。著書に『もうひとつの占領』(インパクト出版会)、『パンパンとは誰なのか』(インパクト出版会)など。

福家崇洋(ふけ・たかひろ)

京都大学人文科学研究所准教授。『戦間期日本の社会思想』(人文書院)、『日本ファシズム論争』(河出書房新社)、『満川亀太郎』(ミネルヴァ書房)など。

藤原辰史(ふじはら・たつし)

京都大学人文科学研究所准教授。著作に『ナチスのキッチン』(共和国)、『給食の歴史』(岩波新書)、『分解の哲学』(青土社)など。

